

# インド概況

## JERA のインド現地法人が営業を開始

JERA 株式会社（以下「JERA」）は、インドにおける事業拠点としてニューデリーに設立した子会社 JERA Energy India Private Limited（以下「JERA エナジー・インド」）の本格稼働を開始した。

JERA によると、同子会社は、インドにおける再生可能エネルギー、グリーン水素・アンモニア、LNG to Power などのプロジェクトや関連ソリューションの情報収集を主な業務とする。さらに、JERA エナジー・インドは、関係省庁や現地企業などとの関係構築も担当する。

これらの業務を通じて、JERA は最適なビジネスチャンスを追求するため、現地市場に関する知識を強化している。2017 年以降、日本の JERA はインドの独立系再生可能エネルギー企業である ReNew 社に出資しており、両社はグリーンアンモニア製造の共同開発に取り組んでいる。今回の ReNew 社とのアンモニア取引では、オディシャ州パラディップにおけるグリーンアンモニア製造プロジェクトの開発を共同で評価し、同プロジェクトでは約 500MW の高容量利用率（CUF）の再生可能エネルギーを活用し、グリーンアンモニアの主要原料であるグリーン水素を製造する。

JERA は、世界のエネルギー問題に取り組むグローバル・エネルギー企業として、再生可能エネルギーと低炭素火力発電を統合したクリーンエネルギー・インフラを提供することで、インドとアジアの持続可能な成長に貢献していく予定である。

## 4 月のインド自動車販売一桁成長

インド自動車工業会は 4 月の自動車統計（出荷ベース）を発表した。乗用車の国内販売台数は前年同月比 1.2%増の 28 万 7,746 台で、3 カ月連続の 1 桁成長だった。なお地場タタ・モーターズの乗用車販売台数を含めると、4 月単月の乗用車販売台数は 33 万 5,629 台に上る。一般乗用車の落ち込みに対し UV の好調が続いている。タタを除く自動車販売全体（乗用車、二輪車、三輪車）では、二輪車が 2 桁成長を続け、前年同月比 25.4%増の 208 万 8,274 台だった。

SIAM のビノド・アガルワル会長は「2024 年度は前向きな消費者心理が功を奏し、まずまずのスタートを切った。今後は例年以上の降雨量が予想されるモンスーンや、政府の製造業・インフラ整備の施策が経済成長を促進し、自動車業界を後押しするだろう」とコメントした。

メーカー別乗用車販売では、首位のマルチ・スズキが 13 万 7,952 台で前年同月比 0.5%増、現代が 5 万 201 台で同 1.0%増と横ばい。続く地場マヒンドラ & マヒンドラは同 18.2%増の 4 万

1,008 台。トヨタ・キロスカは 1 万 8,676 台で同 34.4%増と伸びを見せたが、1 万 9,968 台の起亜に及ばず、3 月から順位を 1 つ落とした。なお、統計に含まれていないタタ・モーターズは、電気自動車（EV）を含めて同 1.9%増の 4 万 7,883 台で、3 位相当を維持した（同社発表）。

車種別にみると、小型車の落ち込みと UV の好調が続いている。首位はスズキのコンパクトモデル（「スイフト」「ワゴン R」など計 5 万 6,953 台）で、前年同月比 24.0%減少した。2 位から 7 位につけたのは全て UV で、2 位はマルチ・スズキのコンパクト UV（「ブレッツァ」など計 3 万 1,656 台）が同 53.5%増。3 位はマヒンドラ&マヒンドラのミニバン（「マラッツ」など計 2 万 1,243 台）で、同 47.8%増。マルチ・スズキの UV（「グランド・ヴィターラ」など計 2 万 1,195 台）が同 59.7%増加で 4 位につけた。

4 月単月の二輪車国内販売は前年同月比 30.8%増の 175 万 1,393 台を記録し、自動車全体の伸びを後押しした。主要部門のオートバイは同 34.4%増の 112 万 8,192 台。スクーター、モペッドも 2 桁の成長を記録した。

## **新田ゼラチン、ケララ州で 6 億ルピーの拡張プロジェクトを開始**

日本の新田ゼラチン株式会社とケララ州工業開発公社(KSIDC)の合併会社である新田ゼラチン・インディア社(NGIL)は、ケララ州で 60 億円を超える拡張プロジェクトを開始した。このプロジェクトは、ケララ州首相が日本を訪問した際、日本の多国籍企業がケララ州に 2 億ドルを投資すると発表したものである。NGIL のコラーゲンペプチド拡張プロジェクトの起工式は、カッカナドにある工場で行われた。

新田ゼラチングループは世界最大のゼラチンメーカーのひとつであり、食品および製薬業界に製品を供給している。同社は 103 年前に日本の大阪で設立され、ケララ州での事業は 2025 年に 50 周年を迎える。

コラーゲンペプチドは、関節の健康促進や内側からの美容に大きく役立つため、世界中で需要が伸びている。糖尿病の管理に役立つ製品もまもなく発売される予定だ。生産能力の拡大は、この需要にうまく応えることができるだろう。このプロジェクトは来年半ばまでに試運転を開始する予定である。

## **ヴェダント社、日本の TFT・LCD メーカー、アヴァンストレートの買収を完了**

ヴェダント社は、日本の薄膜トランジスタ・液晶ディスプレイ用ガラス基板・ディスプレイメーカーアヴァンストレートの買収を完了した。アヴァンストレート社は、高品質な第 4 世代から第 8 世代の TFT LCD（薄膜トランジスタ液晶ディスプレイ）ガラス基板で有名な日本のメーカーである。今回の買収は、インドのエレクトロニクス製造におけるヴェダント社の地位を強化するものであり、エレクトロニクス分野におけるインドの自立に貢献するという同社の目標に沿うものである。

ヴェダント・リソーシズ社の子会社であるヴェダント・リミテッド社（以下「ヴェダント社」）は、インド、南アフリカ、ナミビア、リベリア、アラブ首長国連邦、韓国、台湾、日本にまたがる世界有数の天然資源企業であり、石油・ガス、亜鉛、鉛、銀、銅、鉄鉱石、鉄鋼、ニッケル、アルミニウム、電力・ガラス基板で

重要な事業を展開し、半導体やディスプレイ用ガラスにも進出している。東京に本社を置く アヴァンストレート Inc.は、主にテレビ、ノートパソコン、スマートフォン、タブレット、ウェアラブル端末、その他の電子ディスプレイなどの電子機器の製造に使用されるガラス基板の大手メーカーである。

アヴァンストレート 社の買収は、高成長市場でのプレゼンスを拡大しながら、技術に軸足を置き、ハイテク製造業に多角化するという ヴェダンタ 社のビジョンに沿ったものです。アヴァンストレート 社は、その専門知識とリソースを活用し、インドで急成長しているハイテク電子機器製造業界を支援し、インドおよび世界的な電子機器需要の高まりを活用するために、ヴェダンタ 社の能力を強化することを目指している。

インドは現在、ディスプレイの要件を満たすために中国からの輸入に大きく依存しています。アヴァンストレート 社の専門知識を活用することで、ヴェダンタ社は、急成長するエレクトロニクス製造業に包括的に対応する、インド初のディスプレイ用ガラスとパネルの統合工場を設立する戦略的立場にある。このような施設は、エレクトロニクス製造における国内の付加価値を大幅に向上させ、現在の 15%から 60%にまで高めることができる。

### **インドの ザイップ エレクトリック 社が ENEOS 主導で 1500 万ドルのシリーズ C 資金を調達**

電気自動車フリート管理会社のザイップ・エレクトリックは、日本のエネルギー会社 ENEOS 株式会社から 1500 万ドルを調達した。同社によると、シリーズ C1 の資金調達は「現在進行中の 5,000 万ドルのラウンドの一部として 1,500 万ドルのエクイティローズで、4,000 万ドルのエクイティと 1,000 万ドルの負債に分かれている」。今回の資金調達には、既存の投資家である 9unicorns、IAN ファンド、ベンチャーキャリスト、WFC 等に加えて、ENEOS を含む著名な投資家が参加した。

ザイップ は、EV バイクデリバリー市場のパイオニアとして競争力のあるビジネスを展開している。ザイップ・エレクトリックは 23-24 年度に 325 億ルピーの売上を記録し、最近ムンバイとハイデラバードで事業を開始した。

同社は声明の中で、新ラウンドで得た資金で、保有する電気自動車を現在の約 21,000 台から 200,000 台に拡大すると述べた。2026 年までに、インド全土の 15 都市に進出する計画だ。さらに、ザイップ・エレクトリック は三輪車貨物事業への参入を発表した。電気自動車 L5 ローダーの保有台数が間もなく 1,000 台を突破する意向を示し、収益源を最大化する一方で、より幅広いビジネス要件に対応する用意があることなどを強調した。

同社は現在、完全自動の IoT と人工知能 (AI) 対応スクーターを通じて、食料品、医薬品、食品、電子商取引の荷物を A 地点から B 地点に配送している。この技術は、主要なタッチポイントに設置された ザイップ 交換ステーションで交換できるバッテリーを追跡する。ザイップ の主要パートナーには、BigBasket、Zepto、Flipkart、Myntra、Zomato、Swiggy、Blinkit、Uber、Porter、Rapido、1MG、Delhivery、Blue Dart などがある。

### **CKD インド、ニムラナ工業団地内に工場完成**

CKD（本社：愛知県小牧市）のインド子会社であるCKD インドは5月22日、北西部ラジャスタン州ニムラナに生産工場が竣工（しゅんこう）した。主に自動車製造設備や一般自動機機械向けの空気圧機器や、流体制御機器を生産する。

CKD インドは2015年12月の設立以降、これまでに営業拠点を8カ所にまで拡大しているが、今回が初の国内生産拠点となる。同社工場は、日本企業専用工業団地であるニムラナ工業団地に建てられ、敷地面積は約1万4,600平方メートル、建屋面積は約5,100平方メートル、延床面積は約8,600平方メートル。投資額は約18億円だ。

CKDの奥岡克仁代表取締役社長は竣工式の冒頭あいさつで、新工場がインド政府による製造業振興政策に寄与することに加え、排水処理設備を完備することで環境に最大限配慮している点を紹介した。CKD インドの高橋義貴代表は、工場内にセミナールームを設けたことに触れ、自社だけでなく外部関係者も参加する研修やセミナーを実施することで、生産性向上に貢献していきたいと述べた。

なお、CKD インドとしては、今後需要が伸びる可能性を念頭に、工場の拡張ができる土地約1,500平方メートルを敷地内に確保している。同社が取り扱う空気圧バルブ、流体制御バルブ、フィルタレギュレータ、電動アクチュエータなどの機種拡大を検討していく方針だ。